

Ⅱ．国際シンポジウム

1．国際シンポジウムの概要

(1) 開催目的

近年、世界的規模において、大規模な地震・津波災害が頻発し、多数の犠牲者をもたらすとともに、地域社会が壊滅的な被害を被ってきている。このため、これらの災害の教訓を生かした災害に対して抵抗力のある地域の復興が大きな課題となっている。そこで、安全なまち・地域づくり、暮らしやすく、活力のある地域へ向けての復興再生を目指すという観点から、国際的なパースペクティブからの近年の地震・津波被害の復興過程の比較検討する。さらに、教訓の抽出、今後の取り組みの在り方の検討を行う。これら検討を通じて、日本において今後、議論が高まっていくことが予想される東日本大震災からの復興に向けての示唆を得る。この場合、復興過程は、より安全なまちづくりのチャンスであること、被災の経験が強く残り、被害軽減を実現するための防災関係技術の普及のための条件が優れていること、各国の経済・社会状況によって、効果的な普及の方法、実施主体等は異なることに留意する。国際シンポジウムの実施に当たっては、近年の巨大震災の復興に参画している有識者を招聘するとともに、阪神・淡路大震災等から得られた我が国の知見の活用を図る。

(2) 実施概要

①日時：2012年2月21日（火） 13:00～17:20

②場所：政策研究大学院大学 想海楼ホール

③プログラム：

・第1セッション 13:00～15:20

13:00 主催者挨拶

独立行政法人 建築研究所 理事 伊藤弘
政策研究大学院大学 政策研究センター長 森地茂

13:10 基調講演 東日本大震災からの復興

東京大学大学院 教授、日本学術会議 会長 大西隆

13:55 趣旨説明 近年の世界の巨大震災と復興の状況

独立行政法人 国際協力機構 国際協力専門員 檜府龍雄

14:10 巨大震災と復興についての各国からの報告

－2010年 ハイチ地震災害

ハイチ公共事業・輸送・通信省 建物評価技術室技師 フリッツ・オプラン（ハイチ）

－2008年 中国四川地震災害

北京師範大学 壹基金公益研究院 院長 ワン・ツェンヤオ（中国）

－2004年 スマトラ沖地震・津波災害

インドネシア公共事業省 水道環境衛生訓練センター長 バンバン・スディアトモ（インドネシア）

15:10 地震の概要と特徴

独立行政法人 建築研究所 研究専門員 古川信雄

・第2セッション 15:40～17:20

15:40 パネルディスカッション

1. 趣旨説明 復興・減災に関する論点提起

独立行政法人 建築研究所 国際地震工学センター長 安藤尚一

2. パネリストからの論点提起

－復興の実態：2005年カシミール地震の事例にみる

建築家、災害リスク管理者 ガザラ・ナイーム（パキスタン）

－災害復興におけるジェンダー・社会包摂の視点

静岡大学 教授 池田恵子

－安全な建物づくり、まちづくり

独立行政法人 建築研究所 上席研究員 福山洋

－復旧・復興における防災対策の推進

国際防災戦略アジア太平洋事務所 上級地域コーディネーター ジェリー・ヴェラス
ケス（タイ）

3. ディスカッション

4. 質疑応答

17:15 閉会挨拶

政策研究大学院大学 教授 岡崎健二